

ひだご坊

No.301
2014年8月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 大町慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

何よりも「和」を大事にする 法治国家へ

児玉 暁洋



（略歴）
一九三一年、岐阜県生まれ。一九四八年、暁島敏師の明達寺に入門。一九六一年、大谷専修学院に勤務。一九九〇年、真宗大谷派教学研究所長となる。現在、満天星舎主催。著書に「念仏の感覚」など。

昨年の十二月六日に秘密保護法が国会で成立し、今年の七月一日には集団的自衛権の容認が閣議決定されました。これが一連の政治の動きは、日本が「戦争のできる国」になるという方向に進みつつあることを示していると言わないわけにはいきません。

昭和六(一九三二)年、まさに十五年戦争が始まったその年に生まれた私は、戦争のできる国という言葉を見たり聞いたりすると、過去の日本がそれであった「戦争をする国」という言葉を思い起こさないではいられません。

靖国神社発表のデータが次のように記されています。

明治維新	七、七五二柱
西南戦争	六、九七二柱
日清戦争	一三、六一九柱
台湾征討	一、一三〇柱
北清事変	一、二五六柱
日露戦争	八八、四二九柱
第一次世界大戦	四、八五〇柱
濟南事変	一八五柱
満州事変	一七、一七六柱
支那事変	一九一、二五〇柱
大東亜戦争	二、一三三、九一五柱
合計	二、四六六、五三三柱

大日本帝国憲法、いわゆる明治憲法は、五十六年間続いたのですが、最初の二つの国内戦争を除いて、この五十六年の間にこれだけ多くの戦争をし、多くの人が亡くなっているのです。その憲法

を我々は「戦争をする憲法」と呼んでもよいかも知れません。現行憲法は六十七年間続いているのですが、この平和憲法、すなわち「戦争をしない憲法」のもとでは、戦争や事変によって、たった二人の人も殺されていません。これは、まことに素晴らしいことであり、名譽であり、自信であります。ところが、その「戦争をしない憲法」が「戦争のできる憲法」に改悪されようとしています。悲しく、空しいことです。私の心には「流転」という言葉が浮かびます。「戦争をする国家」がその敗戦を通して「戦争をしない国家」となった。その

平和国家が、また、もう一度「戦争をする国家」への方向に進もうとしています。これは大きく国家という形をとった流転輪廻であります。では、何故このような流転輪廻が起こるのでしょうか。

この「何故」という問いかけに対しては、様々な立場から様々な回答があるでしょうが、私は日本国の一人ひとりに、自分分は日本国をどのような国にしたいのか？という理念・希望・構想がハッキリしていないからだと思います。

しかし、昭和十二(一九三七)年七月に支那事変が始まったその年の秋に、真宗大谷派明泉寺の住職竹中彰元は、その「戦争をする憲法」の真つ只中で

戦争は罪悪である。
この度の事変は自分
は侵略と考える。
と受け止められています。

私は竹中彰元に導かれつつ、最初に述べた最近の日本国の出来事がわれわれに問いかけているその問いかけに回答して、日本国の理念を次のように表現いたします。

①私は一人の念仏者として、法蔵菩薩の本願に信順しつつ、日本国が地獄(戦争)と餓鬼(貧困)と畜生(恐怖)のない国であることを願う。

②私は一人の日本国の人民として、親鸞聖人が「和国の教主」と仰がれた聖徳太子の十七条の憲法の精神に導かれつつ、日本国が何よりも平和を大切にす法治国家であるようにしたい。

③私はこの地球に住む人類の一人として、現代世界からの「如何にして殺し合いの連鎖を断ち切ることができるか」という問いかけに回答しつつ、日本国が「銃を持った民主主義—Democracy with a Gun—」ではなく「銃を持たない民主主義—Isomony without a Gun—」の国であることを欲する。

児童夏のつどいin賢誓寺

友だちたくさんつくったよ！

1泊2日思いっきり楽しみました！

7月29日(火)から30日(水)の1泊2日の日程で、下呂市萩原町宮田の賢誓寺を会場に「児童夏のつどい」が開催されました。飛騨一円から集まった79名の子ども達と、中学生スタッフ2名を含む29名のスタッフが参加し、おとつめ、川遊び、カレー作りや小坂の滝めぐりをしました。

最初は不安そうだった子どもたちも、一緒に遊んでお風呂に入って生活するうちにすっかりうちとけ、「友達ができよかった!」「来年もまた参加したい!」といった声を聞かせてくれました。

★子どもたちの感想★

- ・玉ねぎやじゃがいもを切るのはとても大変でしたがその後のカレーは最高でした。
- ・友達がたくさんできたのでよかったです。また行きたいです。
- ・山では、三つ滝や唐谷滝やあかがねとよがすごくきれいでした。谷の下の水がすごくきれいでした。
- ・講師の話聞いて、命をたいせつにして、人の考え方を批判するんじゃなくてそういう考え方もあると思いたいです。
- ・初対面の人々が苦手だったけど、苦手じゃなくなりました。
- ・いろんな地区からきて泊まることは初めてだったので緊張しました。でもなかよくなれたのでうれしかったです。
- ・お経をよむ時は、足がつかれたけど、しっかり読めたのでよかったです。



宗教トラブル相談窓口(0577-3210763)

おしえてくわがせう

Q 家庭でのお勤めはこれまで、毎日の朝夕、ご飯をいただく前にされてきました。小さいころ、おじいちゃんやおばあちゃんが毎朝お仏飯をお備えするのを見て育った方もおられるのではないですか。仏さまに手を合わせるという一日が始まり、一日が終わるといことですね。

A 「絶対にこうしなければならぬ」と決まっているわけではありません。親鸞聖人は、「念仏というのは、いつ、なんべん称えたかが大事なわけではない」とおっしゃいます。また、

法然上人は、「一回でも念仏すればよい」とおっしゃいながら、毎日何万回も念仏しておられたそうです。お勤めや念仏は、その善し悪しをこちらが勝手に決めるものではないのです。

普段、わたしたちは「帰命無量寿如来」から始まるお勤めをしますね。この「正信偈」の中には、インド、中国、日本で念仏の教えに生きられた七人の先人の歩みが確かめられます。同じように、そのお勤めがされてきたそれぞれの家庭のお内仏には、その前でお手を合わせてこられたたくさんの方々の歴史があります。ですから、念仏やお勤めというのは自分一人がするものではありません。むしろ、念仏の歴史に自分も参加するのです。

日々の暮らしの中、お内仏に向き合うところに、自分にまで念仏を届けてくれた方々の声を聞きとつていきましよう。

☎テレホン法話(0577)(34)2313 ☎8月21日~31日:小倉喜信氏「圓城寺」 ☎9月1日~10日:旭野康裕氏「永養寺」 ☎9月11日~20日:野崎尚齊氏「西正寺」

ひだご坊

家族で読もう

私を照らす

ひかりの言葉④

酒井 義一

サクラマス的一生

今年の初夏、北海道にお邪魔しました。旬を迎えた魚にサクラマスという名の魚がいました。この魚実は川魚のヤマメと同じ種類なのだそうです。その時に聞いた「サクラマス的一生」というお話が、とても印象に残りました。

卵からかえったヤマメは、しばらく川で育ちます。やがて川に残るヤマメとは別に、集団で海に出るヤマメがいるのだそうです。海に出たヤマメは豊富なプランクトンや小魚をたくさん食べ、体はどんどん大きくなります。しかし、海には外敵が多く、自分より大きな魚に食べられて、その数はどんどん減っていきます。こうして海に出たヤマメは体が大きくなり、十五センチの川のヤマメに対して、体の長さが七十センチもの大きなサクラマスとなって、やがて生まれた川に戻ってくるのです。そして卵を産み、いのちのバトンを渡していく、ということでした。

ところで、なぜサクラマスは自分の生まれた川を間違えずに戻ってくるのでしょうか。それは、記憶力が良いから、というのではないのでしょうか。もしもそうだとすると、記憶力のあまりよくないサクラマスは故郷に帰ってくる事ができなくなってしまうます。生まれ故郷に戻ってくることは、それはおそろしくサクラマス自身に宿るいのちの本能なのでしょう。

心の底から落着ける居場所

私は今、定期的に福島県いわき市の仮設住宅に訪問をしています。そこには東京電力福島第一原子力発電所に近い富岡町に住んでいた方々が避難生活をされています。あるおばあさんは言いました。「早く生まれたところに戻りてえ。まるでいのちの底からの叫び声のように聞こえてきました。」

「生まれたところに戻りてえ」。それは人間に宿るいのちの本能のように思えました。また、ある女性はこう言います。「心の底から落着ける居場所がほしい」。その方が暮らしているのは仮設住宅、つまり仮の住居です。人は、心の底から落着くことのできる居場所を求め続けるもの。そして、その心は枯れはしないということ強く感じます。

これはおそろしく考えて出てきた言葉ではないでしょう。人間の存在の、その奥底から絞り出されるようにして出てきた、まさにいのちの本能としての言葉なのではないでしょうか。

さあ帰ろう

親鸞聖人が出会った言葉に、次のような言葉があります。 帰去来、他郷には停まるべからず。仏に従いて、本家に帰せよ。

（『教行信証』聖典355頁）

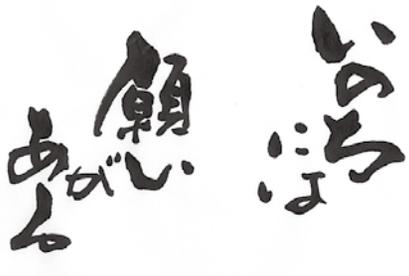
帰去来とは、「さあ帰ろう」という教えからの呼びかけの言葉です。本家とは、阿弥陀の浄土、本来の居場所ということ。他郷とは、本来停まってはならない世界のことです。しかし、停まっている本人は、そこが他郷だという自覚は

ありません。居心地がよいからでしょうか。または、本当に帰るべき世界を見失っているからでしょうか。本人には他郷にいるという自覚がないのです。 そのような私たちに向かって、仏さまは「そこは他郷だ」と知らしめ、本当に帰るべき本家に帰ろうと、絶えず私たちを促し続け、導き続けているのではないのでしょうか。



あなたへのメッセージ

サクラマスが、たくさんの苦難を体験しながら生まれ故郷に戻ってくるように、私たちもまた、たくさんの苦難を体験しながら、本家に帰ることが願われています。 いのちには願いがある、という言葉があります。心の底から落着ける居場所に帰ろうという願いを持つたいのちが、今わたしを生きている・・・そんな風に感じられることはないでしょうか。



今回は藤場芳子さんの「女と男のナムアミダブツ④」です。

ご壇案内

詳細は会所のご寺院にお尋ねください。

- 8月 22日(金) 敬勝寺[白川村] 23日(土) 法蓮寺[白川村] 24日(日) 齊入寺[白川村] 25日(月) 明善寺[白川村]
9月 4日(木) 淨永寺[古川町] 5日(金) 了心寺[山口町] 6日(土) 蓮勝寺[莊川町] 7日(日) 淨慶寺[古川町] 8日(月) 願徳寺[河合町] 9日(火) 長林寺[清見町] 10日(水) 誓願寺[古川町] 11日(木) 不遠寺[総和町] 12日(金) 了宗寺[莊川町] 13日(土) 恵林寺[清見町] 14日(日) 賢誓寺[宮川町] 15日(月) 長圓寺[朝日町] 16日(火) 了徳寺[清見町] 17日(水) 一念寺[清見町] 18日(木) 寶蓮寺[朝日町] 19日(金) 寶林寺[宮川町] 20日(土) 圓城寺[朝日町] 21日(日) 賢藏寺[莊川町] 22日(月) 長圓寺[朝日町] 23日(火) 了徳寺[清見町] 24日(水) 一念寺[清見町] 25日(木) 寶蓮寺[朝日町] 26日(金) 寶林寺[宮川町] 27日(土) 圓城寺[朝日町] 28日(日) 賢藏寺[莊川町] 29日(月) 長圓寺[朝日町] 30日(火) 了徳寺[清見町] 31日(水) 一念寺[清見町]

ご坊文化講座

(第2回)

日時 9月10日(水) 午後1時30分から 講題 「市内お西の寺院史」 会場 高山別院 講師 三嶋昌氏 (三福寺町 歎喜寺住職) 会費 600円

秋の彼岸会・永代経法要 9月20日(土)~26日(金) 午後1時から勤行・法話 亡き方をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

非戦・平和展

現在、高山別院本堂において「非戦・平和展」パネル展を開催中です。時間は午前8時から午後4時。28日(木)まで。



お寺で子ども会やってるよ!

- 【鉄砲町】 真蓮寺 (0577-34-2507) 8月23日(土) 午前9時~11時30分
【久々野】 久々野教会 (0577-52-2633) 8月21日(木) 午前8時30分~9時30分
【萩原町尾崎】 永養寺 (0576-55-0323) 原則第4土曜日 午前9時30分~
【萩原町宮田】 賢誓寺 (0576-55-0747) 9月6日(土) 午前9時~
【白川村平瀬】 常徳寺 (05769-5-2029) 《子ども報恩講》 9月4日(木) 午後7時~午後8時30分

みなさんぜひ遊びに来てください! お問い合わせは各お寺まで。

寺パ 2nd Season

前回は一組のカップルが誕生。ご好評だった「寺パ」第2回目の開催が決定しました!

日時 10月11日(土) 午後4時~9時ころ

会場 高山別院

【応募資格】 25~45歳の独身男女

【応募人数】 男女各15名程度 (応募多数のときは抽選)

【応募締切】 9月16日(火)

【主催】 飛騨仏教青年会

申し込みについてのお問い合わせは 高山別院(0577-321-0688)宮本まで。

定例法座・法話(午後1時から) ○8月21日(木) 小原正憲氏「専念寺」 ○8月27日(水) 大町慶華輪番 ○8月28日(木) 坂上祥司氏「靈雲寺」 ○9月1日(月) 三木昌之氏「蓮徳寺」 ○9月11日(木) 大町慶華輪番 ○9月13日(土) 白川壽麿氏「願生寺」